
音。

風唄

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
音。

【Nコード】
N8243A

【作者名】
風唄

【あらすじ】
カッン、カッン、カッン、また、音が聞こえる、毎晩、毎晩…

カッン、カッン、カッン、

ああ、まただ、

音がする、

毎晩、夜になると、音がする、

毎晩、毎晩、絶えることは無く、

毎晩、毎晩、

音がする、

気付いたのはいつだったか、

多分、このマンションに越してきた日には気付いていた気がする、

はじめは、気にも止め無かった、

気にしだしたのはいつなのか、

毎晩、毎晩、

毎晩、毎晩、

絶えたことは無い、消えることは無い、

無くなることは無い、

いつまでたっても、

終わらない、

絶えない、

消えない、

毎晩、毎晩、

いい加減、ノイローゼになりそうだ、

どうしても、気になって、

管理人に言った、

なんなのか、調べてくれないかと、

管理人は、大丈夫だから、と、繰り返すばかりだった、

なんと問いても、なんと問いても、

管理人は、大丈夫の一点張りで通した、

どうしても、真相は、わからない、

また、夜が来る、

カッン、カッン、カッン、

また、音がする、

絶えることは無い、

消えることは無い、

終わることも無い、

カッン、カッン、カッン、

一体何なのか、

俺にはわからない、

気味が悪い、

俺は、音を調べてみようと思った、

…音は、どこからしているのか、

わからない、わからない、

前後左右、どこからも音が聞こえる気がする、

ところからも音が聞こえない気がする、

一体どこで、

一体どこから、

一体何故に、

一体、一体、

今日は、一睡もできなかった、

音は、毎日大きくなっている、気がする、

気が、する、

カッン、カッン、カッン、

また、音がする、

もう、いい加減、やめたい、聞きたくない、いやだ、つらい、苦し
い、俺は、耳を、塞ごうとする、

…

動かない、動かない、動かない、

金縛りと言っのだろうか、

…この際、名等なんでも、良い、

ここには、動かないという事実が、横たわっているだけなのだから、

動かない、動かない、

そうして、日が昇った、

俺は、もう、我慢できない、

管理人に聞いても、大丈夫としか、答えてくれない、

仕方ない、ほかの住人に、問う、

殆どの方は口を閉ざした、

俺が、問うと、皆、顔色を変え、知らないと、答えた、

ただ、一人、答えてくれた、

あの部屋で、昔、起こった、悲惨な、残酷な事件を、

…聞かなければよかった、

聞きたく無かった、

知らないで居たかった、

あの部屋の住人が恋人に、惨殺されたなど、

その死に方は、並では無かったらしい、

手足を、バラバラにされ、埋められた、らしい、

ただ、頭だけは、あの部屋に飾ってあった、らしい、

これだけでも驚いたが、この話には続きがあった、

事件後の加害者の、餓死、

とても、言葉では現せない、死に方、

不自然な、死に方、自殺とも思えない、

他殺とも、思えない、

死に方、

… 一体、俺は、どうすればいい、

… とりあえず、ホテルに泊まろう、

俺は部屋に戻り、財布などを持ち、出掛けた、

今夜は、久しぶりに、よく眠れそうた、

… カツン、カツン、カツン、

… 何故、何故あの音が、

カッン、カッン、カッン、

カッン、カッン、カッン、

一体、俺に、どうしろと、言うのだ、

また、朝が来る、

…音が消える、筈だった、

いつもなら消える筈だ、

朝になると終わる筈だ、

何故だ、何故消えない、何故、何故…

俺は恐い、

一体何なのか、

死んだと言う、二人の、幽霊なのか、

俺は幽霊など、信じていない、

幽霊など信用できない、

しかし、俺は、幽霊では無いかと、思い始めていた、

カッン、カッン、カッン、

音が大きい、

明らかに、廊下から、音が、している、気がする、

カッン、カッン、カッン、

カッン、カッン、カッン、

どンドン、音が、大きくなる、大きく、大きく、

どのくらい時間が経ったのか、いつのまにか、音は、しなくなっていた、

もう、ここはダメだ、

俺はホテルをチェックアウトして、早急に、去った、そこを発つと、耳に音が、聞こえてくる、

カッン、カッン、カッン、

カッン、カッン、カッン、

何故だ、何故だ、何故だ、何故だ、何故だ、

恐い、恐い、恐い、

一体、俺はどうすれば良い、

…逃げる、俺に手は無い、

逃げた、どこまでも、どこまでも、どこまでも、

ずっと、逃げれるところまで、

逃げる、逃げる、逃げる、

どこまでも、

…

ある日、行方不明になっていた男が見つかった、

突然の失踪だった、

謎の失踪、

回りの人も失踪する理由など無かった、と、

結果は、男の餓死、衰弱死、

全ては、闇の中に、

(後書き)

このような稚拙な作品を最後まで読んでいただきありがとうございます
ましたm () m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8243a/>

音。

2011年1月4日02時17分発行